

発掘調査速報展

2015



◆開催期間◆

2015年

7/22(水) ~ 8/30(日)

ごあいさつ	1
平成 26 年度調査実施箇所	2
東村跡	4
首里高校内中城御殿跡	7
首里城跡	10
首里城公園内中城御殿跡	15
阿波連浦貝塚（県内遺跡）	17
喜友名前原第三遺跡（基地内文化財）	20
白保竿根田原洞穴遺跡	23
沖縄歴史年表	27
発掘調査のきっかけ（契機とは）	28

※「戦争遺跡」は別巻

凡例

1. 本書は、沖縄県埋蔵文化財センター企画展「発掘調査速報展 2015」を補完するものとして編集した。
 2. 許可なく本書の複製および転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

沖縄県内には集落跡や貝塚、グスク、近世古墓群など約4,500ヶ所の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人が残したこれらの埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学見地から検証した成果を沖縄の歴史や文化の研究に役立てています。

通常、発掘調査開始から出土品を整理し、報告書を刊行するまで数年要することから、前年度の発掘調査で得られた最新の情報をいち早く公開するために、「発掘調査速報展」を毎年開催しています。

今回の「発掘調査速報展2015」は、平成26年度に調査を行った沖縄本島や離島における8事業の概要や主な成果について、出土遺物や写真パネル等で紹介しております。

重要な発見として、首里高校内に所在する次の琉球国王となる王子の屋敷である中城御殿跡の発掘調査で、「首里古地図」に描かれていた内容を実証する遺構や、描かれていなかった遺構などの発見がありました。また、石積みの解体中に発見された階段状遺構によって、土木工事や立て替え工事が行われていたことも解りました。

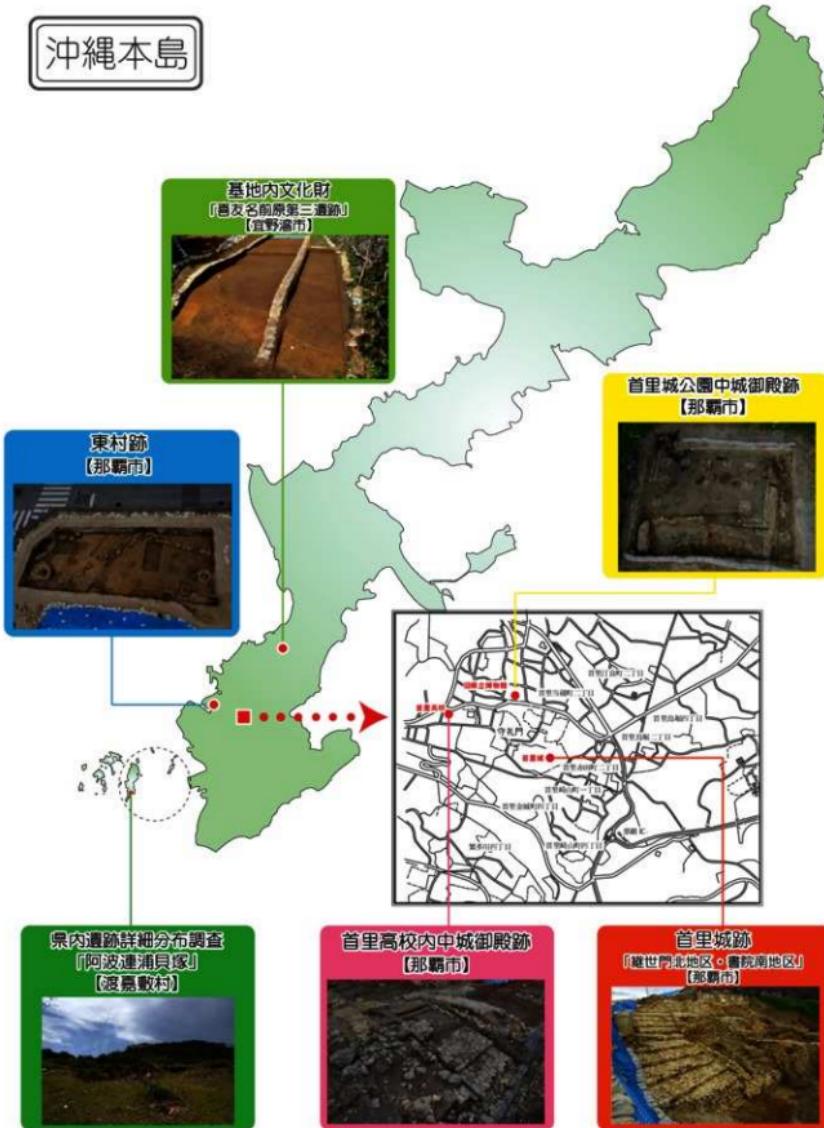
なお、今年は戦後70年の節目の年に当たり、当センターによる戦争遺跡の調査の成果をまとめた『沖縄県の戦争遺跡－平成22～26年度戦争遺跡群詳細確認調査報告書－』が刊行され、その内容について、解説文と写真パネル、模型等で紹介します。なお、図録も別に作成いたしましたので、そちらもご覧ください。

この速報展を通して、多くの方々が当センターの発掘調査と沖縄県の埋蔵文化財について親しみを持ち、その価値や重要性について理解を深める機会となれば幸いです。

平成27年7月22日
沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 下地英輝

平成 26 年度調査実施箇所



八重山諸島



石垣島



白保竿根田原洞穴遺跡
【石垣市】



戦争遺跡詳細確認調査（本島内各地）

戦争遺跡【本島内各地】



平成26年度発掘調査一覧

遺跡名・事業名	所在地	時代区分
東村跡発掘調査	那覇市	グスク時代～戦前
首里高校内中城御殿跡発掘調査	那覇市	グスク時代～近代
首里城跡発掘調査「絆世門北・書院南地区」	那覇市	グスク時代～近世
首里城公園「中城御殿跡」発掘調査	那覇市	近代～現代
喜友名前原第三遺跡（基地内文化財分布調査）	宜野湾市	縄文時代後晩期～グスク時代・近世・近代
阿波連浦貝塚（県内遺跡詳細分布調査）	渡嘉敷村	縄文時代～弥生並行期
白保竿根田原洞穴遺跡確認調査	石垣市	旧石器時代～グスク時代
戦争遺跡詳細確認調査	県内各地	近代

あがりむらあと
東村跡

事業名：東村跡発掘調査

所在地：那覇市東町 21-1 番地 他 3 箇

時代：グスク時代～戦前

調査期間：平成 26 年 7 月 1 日～12 月 26 日

本事業は、離島児童・生徒支援センター（仮称）建設に伴い、現状のまま残すことができない埋蔵文化財の記録作成を目的として実施した発掘調査です。

東村は、那覇港の繁栄によって形成された村で、周辺には那覇港があり、村には船の建造や修理に従事する技術者などが居住していたとされています。また、琉球王国時代の役所の一つである親見世^{おやみせ}、冊封使の宿舎として利用された天使館^{てんしとかん}などの公的な施設も周辺にありました。その後、戦前までは那覇市役所等の公的機関の他、銀行、商店などが立ち並び、古くから那覇の中心地として多くの人で賑わいをみせた場所でした。

発掘調査の結果、グスク時代、近世、近代～戦前の様々な遺構が見つかりました。グスク～近世では建物の柱跡、土坑、円形石組遺構、石列、貝集石遺構など、近世では建物の柱跡、土坑、方形石組遺構、石列、溝状遺構など、近代～戦前の遺構では建物の基礎跡、井戸などが確認されました。

遺物も多く出土しており、中国産の陶磁器を中心として東南アジアや沖縄、本土産の陶磁器の他、土器、瓦、埠、錢貨、貝、獸骨などがみられます。中でも、貝や大型の獸骨も多くみられるのが特徴的です。

今回の調査で確認された多種多様な遺構や遺物から、かつてこの周辺一帯が多くの人で賑わいをみせていましたことを物語っています。





1 地点 遺構検出状況（南から）



3 地点 遺構完掘状況（東から）

主な遺構



石列（東から）



円形石組遺構（北から）



方形石組遺構（南から）



貝集積遺構(サラサバティ)



遺物廃棄土坑（東から）

しゅりこうこうないなかぐすくうどうんあと 首里高校内中城御殿跡

事業名：首里高校内中城御殿跡発掘調査

所在地：那覇市首里真和志町2-43

時代：グスク時代～近代

調査期間：平成26年4月7日～平成27年2月27日

中城御殿の概要

中城御殿は、次の琉球国王となる王子が暮らした屋敷です。代々の王子が中城間切を与えられて、中城王子と呼ばれていたことが屋敷の名前の由来です。当初その建物は、1621～1640年の尚豊王代に、今の首里高等学校内に創建されました。1700年頃に作られた「首里古地図」によると、石垣で囲われた敷地の中に15棟ほどの建物が建っていたことがわかります。

その後、1875（明治8）年に旧県立博物館跡地に移転しました。

調査成果

遺跡の中心となるのは、近世（17～19世紀）に使用された屋敷跡です。屋敷跡から、まわりに石を敷いた井戸や、排水溝がある階段など、王子が住むのにふさわしい遺構が多く見つかっています。また、人為的に洞穴を掘り込み、石積みで囲った空間が見つかりました。雨が降ると水が溜まつたままで、目立った出土遺物もないことから、水を汲むための場所だと考えられます。その他には、傾斜地を平らにするための大量の造成土や土留めの石積みが見つかりました。造成土の中から古い時代の建物跡が見つかり、石積みが積み直されていることから、土木工事や建て替え工事がたびたび行われたことがわかりました。

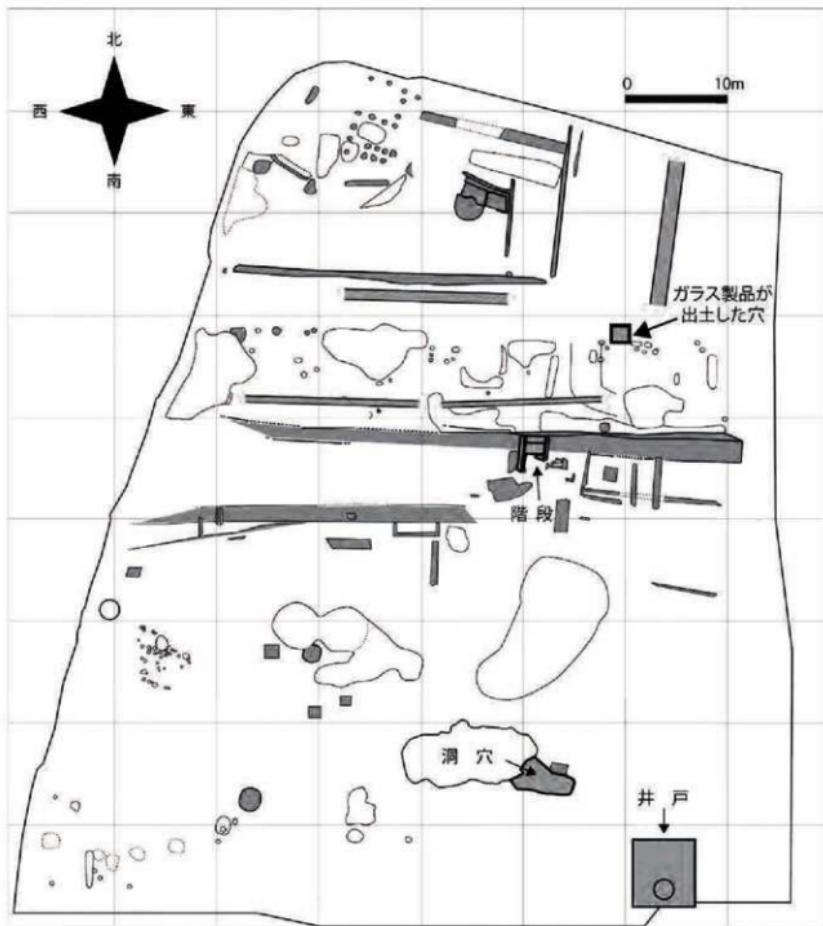
近世の屋敷跡のさらに下層から、グスク時代（15～16世紀）の柱の穴や、中を石積みで囲った大きな穴が見つかりました。石積みで囲った穴には、深さが2m以上のものもあります。中からは大量の陶器や貝殻などとともに、ガラス製品が出土しました。ガラス製品は、国内で数例しか出土していないペネチアングラスと考えられるものもあります。中城御殿が建てられる以前に、貴重なガラス製品を持つことができた人達がこの場所に住んでいたことがわかりました。



ガラス製品



ガラス製品が出土した穴



首里高校内中城御殿跡 遺構配置図



排水溝がある階段



洞穴に積まれた石積

しゅりじょうあと 首里城跡「繼世門北地区・書院南地区」

事業名：首里城跡発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵町3丁目1番

時代：ダスク時代～近世

調査期間：平成26年7月1日～平成27年3月27日

本事業は、沖縄戦で焼失した首里城の復元整備に伴い、必要な情報を得るために発掘調査を実施しています。昨年度は、次項の図に示した場所で発掘調査を行いました。以下、調査成果を繼世門北地区と書院南地区の2ヶ所に分けて説明します。

繼世門北地区

この地区では、美福門の基壇とそこから南東方向に延びる階段や、城内十獄のひとつ「赤田御門の御獄」と推定される拝所遺構、マージの地山に掘り込まれたピット群など、様々な遺構を確認することができました。「美福門」とは尚巴志王代（1422～39）創建と伝わる内郭の門で、かつては首里城の正門であったともされています。調査では櫓を乗せる東側石積みの根石と、階段が取り付く平場、獅子像を据えたとされる台座の一部を確認しました。また、これらの下層から、美福門創建以前に構築したと考えられる基礎石積みも検出されました。階段は磴道とも呼ばれる形態で、幅が広く緩やかに傾斜する踏面と、高い蹴上という特徴を持っています。段数は平場から数えて12段確認できましたが、13段以降は戦後の造成で破壊されていました。年代は基礎石積みや階段下層出土の陶磁器等から15世紀前半～中葉と考えられ、伝承と概ね一致する成果が得られています。

拝所遺構は、直径約3～4m×高さ約2mの巨岩とそれを囲む二重の石積み（15世紀後半～16世紀と17世紀後半～18世紀前にそれぞれ構築と推定）で構成されています。この巨岩上面にある2ヶ所の自然凹部から、金製厭勝銭と青銅製錢貨が人為的に埋められた状態で合計23枚出土しました。金製厭勝銭の出土例はこれまで4件しか確認されておらず、出土地も首里城跡・斎場御獄・園比屋武御獄に限られるため、祭祀行為に伴う呪術的な遺物と考えられます。また今回の資料は、御獄の「イビ（神が降臨する際の標識）」に相当する巨岩から出土した初の事例でもあることから、琉球王国時代の首里城内における祭祀の様相を窺う上で貴重な発見といえます。ピット群は調査区南東側（かつて美福門前階段の13段以降が存在した場所）から約30基確認されました。直径は10～30cm程度で、中には柱を建てたような痕跡が残るものも複数みられることから、かつてこの場所に何らかの建物があったと考えられます。美福門前階段や繼世門（1546年創建）の下層から検出されたため、年代は14～15世紀頃と推定されます。

書院南地区

この地区は平成13年度調査区の南東側に隣接する場所です。調査では内郭城壁の検出を想定していましたが、戦後の造成で著しく破壊されており、遺構や遺物包含層は確認できませんでした。



緒世門北地区・全景（南東より）



継世門北地区・美福門前階段検出状況（南より）



継世門北地区・美福門前基壇及び台座検出状況（東より）



継世門北地区・美福門前階段東側石積み検出状況（東より）



継世門北地区・美福門前基壇及び台座検出状況（東より）



継世門北地区・美福門前階段東側立面検出状況（東より）



雜世門北地区・拌所遺構（北より）



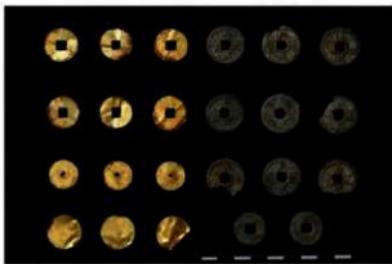
雜世門北地区・拌所遺構内金製厭勝錢出土状況 1
(西より)



雜世門北地区・拌所遺構内金製厭勝錢及び
青銅製錢貨出土状況（北より）



雜世門北地区・拌所遺構内金製厭勝錢出土状況 2
(西より)



雜世門北地区・拌所遺構出土金製厭勝錢及び
青銅製錢貨



繼世門北地区・ピット群検出状況（南より）



繼世門北地区・ピット半截状況 1（東より）



繼世門北地区・ピット半截状況 2（南東より）



繼世門北地区・遺物出土状況 1（中国産青磁）



繼世門北地区・遺物出土状況 2（中国産青花）



書院南地区・試掘トレンチ 1 内上層堆積状況（西より）



書院南地区・試掘トレンチ 2 内上層堆積状況（東より）

しゅりじょうこうえんなかぐすくうどんあと 首里城公園中城御殿跡

事業名：首里城公園発掘調査

所在地：那覇市首里大中町1-1

時代：近世～現代

調査期間：平成26年6月1日～12月26日

中城御殿の歴史

中城御殿は、次の琉球国王となる世子が暮らした屋敷跡を指します。当初その建物は、17世紀前半に現首里高等学校敷地内（現首里真和志町）に創建されました。その後、1875（明治8）年に現在の首里大中町であるこの場所に移転し、1945年の沖縄戦により破壊されるまで存在していました。今回調査の対象とするのは、移転後の中城御殿を指します。

戦後は一時引揚者たちのバラックが建てられ、のちに首里市役所、首里バス会社の敷地として使用されましたが、1965年に龍潭の東側にあった博物館を移転するために琉球政府によって敷地が買い取られます。そして米国の援助によって琉球政府立博物館の建物が新築されました。その後、博物館は1972年の本土復帰に伴い沖縄県立博物館に改称され、2009年に解体されるまでこの地に存在していました。

調査成果

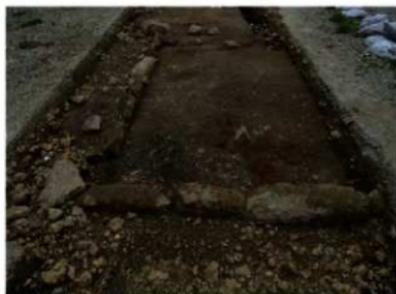
トレント1～5において、旧県立博物館の工事によって中城御殿に関係する遺構は破壊されており、石畳の一部や建物基礎の一部のみが検出されました。トレント3では中城御殿跡の中心的な建物である御寝廟殿の建物基壇の根石が一部残っていたのが確認されています。

最も大きな成果があったのはトレント6です。このトレントでは、かつての中城御殿炭御蔵の建物基礎と思われる集石遺構11基がまとめて検出されました。あわせて、炭御蔵の建物規模は3間×4間で、5.7m×7.6mであることも判明しました。また、炭御蔵を囲っていた石列遺構やその東側に隣接していた砂利道や側溝、そして南側に隣接して池状遺構を検出しています。とくに池状遺構について、古写真や絵画資料には描かれていない遺構であり、出土遺物と検出遺構の状況から大正から昭和初めにかけて構築された施設であると思われます。

このように、在りし日の中城御殿跡が窺える遺構がまとまって確認されたのは、今回の調査で大きな成果であったと言えます。



トレンチ6 空撮（南から）



御寝廟殿基礎根石（東から）

あはれんうらかいづか 阿波連浦貝塚(県内遺跡)

事業名：県内遺跡詳細分布調査

所在地：渡嘉敷村阿波連浦貝塚

時代：縄文時代～弥生並行期

調査期間：平成 26 年 8 月 4 日～9 月 11 日

これまで埋蔵文化財の分布状況を把握が不十分であった慶良間諸島（渡嘉敷村・座間味村）において、平成 22～27 年度の予定で遺跡分布調査を実施しております。

平成 26 年度は渡嘉敷村阿波連浦貝塚の範囲確認調査を実施しました。

阿波連浦貝塚は、渡嘉敷島南東隅の海岸砂丘に位置する縄文時代晚期～弥生並行期の遺跡で、昭和 53（1978）年に沖縄国際大学の学生による踏査によって、採砂中の砂丘地より多くの貝殻や土器を発見しました。その後、同大学試掘調査（1978、1979）及び範囲確認調査（1986、1987）が行われ、その結果 3 つの文化層（IV 層、VI 層、VII 層）が確認されました。また、VI 層から出土し標識とされた阿波連浦下層式土器は縄文時代晚期から弥生並行期の時期に位置付けられ、南九州縄文晚期の黒川式と特徴が類似することが指摘されていることから、土器型式の変遷や九州地域との関連（交流）を知る上で重要な遺跡と考えられます。しかし、近年風雨や周辺からの雨水の流れ込みにより遺跡の崩壊が進み、その保存が懸念されていました。

そこで当センターでは、遺跡の保護を検討するために平成 26 年度より地形測量と範囲確認調査を開始しました。今回、砂丘地の崩壊が大きい箇所の現状を把握するために、トレーニングを 1 箇所設定し調査を行いました。その結果 I 層（現砂丘層）、II 層（旧地表・砂丘層）、III 層（黄褐色～浅黄色砂丘層）、IV 層（黒褐色粘砂層）、V 層（淡黄色砂層）、VI 層（黒褐色砂層）、VII 層（淡白色砂層）、IX 層（灰白色砂岩）を確認しました（写真 5）。今回の調査では IV 層で浜屋原式と思われる土器の底部（写真 4、8、9）、VI 層より土器の破片が数点出土しました。また、IV 層の下面より貝集中遺構を確認しました（写真 4、6）。この遺構からオオベッコウガサ、イモガイ、ヒメジャコ、ヤコウガイ等の貝類のほか、土器の破片も一緒に出土しました（写真 7）。しかし、過去の調査で確認された VII 層が確認できませんでした。これは砂丘の下にある岩盤（IX 層）が北から南へ傾斜しているためと考えられます。

阿波連浦貝塚が所在する砂丘地は、風雨の影響を受けていますが、今回、過去の調査で確認された遺物包含層を確認することができ、遺跡の現状を把握することができました。今後は阿波連浦貝塚の詳細な範囲の確認と、遺跡の保護を図る予定です。

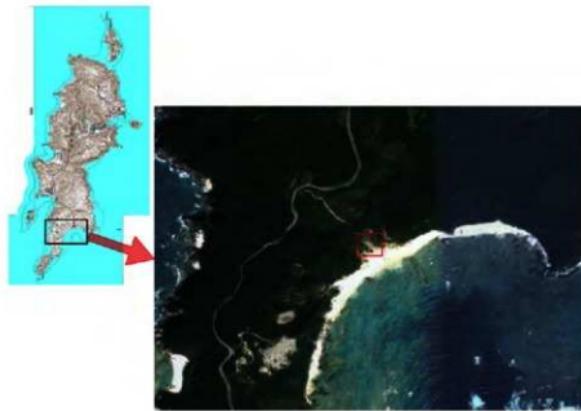


写真1 阿波連浦貝塚 遺跡位置（■：調査位置）



写真1 阿波連浦貝塚 全景（○：調査箇所南より撮影）

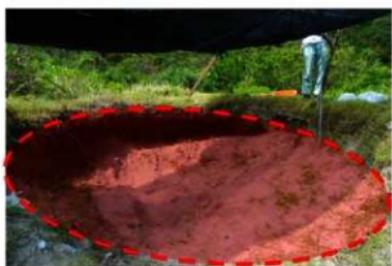


写真3 調査前状況

（◆が風雨により崩れている箇所）



写真4 調査トレンチ北陸 分層状況

（◆：土器、○：貝集中遺構）



喜友名前原第三遺跡(基地内文化財)

事業名：基地内文化財分布調査

所在地：宜野湾市喜友名

時代：縄文時代後晩期(約3500～2500年前)、グスク時代(12～17世紀初)、近世・近代

調査期間：平成26年9月1日～平成27年3月24日

1 基地内文化財分布調査とは

基地内文化財分布調査事業は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地の中にどのような遺跡があるかを調査し、その成果を遺跡の保存・活用や跡地利用計画に活かしていくことを目的として、平成9年度から文化庁の補助金を受けて実施しています。

2 喜友名前原第三遺跡確認調査の成果

平成26年度は、平成14・15年度に試掘調査によって発見された喜友名前原第三遺跡の、範囲・性格を明らかにするための確認調査を実施しました。一昨年の平成25年度は、この遺跡の北に位置する喜友名東原第四遺跡の確認調査した際、縄文時代晩期の終わり頃(約2400年前)の竪穴住居とみられる遺構や、そこで使われた土器、北九州からもたらされた黒曜石製の石器などが見つかっています。喜友名前原第三遺跡の確認調査では、この喜友名東原第四遺跡との関係性も課題に、全4ヶ所で発掘調査を行いました(写真1)。

今回の調査によって、この遺跡からは近世・近代、グスク時代、縄文時代の3つの時代にまたがる遺跡と確認されました。



写真1 調査箇所 左：普天間飛行場全体 右下：調査箇所

近世・近代 遺構と遺物は4つのトレンチ全てで出土しています（写真2）。遺構は溝状遺構を検出し、これには幅が広いものと狭いものが確認できました。前者は畑の区画を示すための、後者は耕作に直接関係する畝の跡と考えられます。遺物には沖縄産の陶器を中心で、他に本土産の陶磁器や円盤状製品、キセルなどがあります。



写真2 近代の遺構 左：溝状遺構（1トレンチ） 右：畝跡（4トレンチ）

グスク時代 遺構はピットを2トレンチの北側、3トレンチの東側、4トレンチの北側で検出しました（写真3）。これらのピットの中には、柱穴と考えられるものも含まれることから、グスク時代の頃には掘立柱建物跡が複数存在していた可能性が考えられます。また、これらのピットは集中する箇所が限られていることから、当時の土地利用を知ることのできる手がかりになるものです。



写真3 グスク時代の柱穴（3トレンチ）



写真4 繩文時代の竪穴住居址?
(上: 2トレンチ 下: 4トレンチ)

縄文時代 遺構は2トレンチと4トレンチの中央部分で竪穴住居址と考えられる遺構を検出しました(写真4)。2トレンチの遺構は後世の土地利用の影響を受けているが、遺構の周囲からは縄文時代晚期の土器や、喜友名東原第四遺跡と同じく黒曜石製の石器が出土しています。また、4トレンチの遺構やその周辺からは縄文時代晚期の土器やチャートなど石器石材の破片が出土しています。今回の調査はこの遺構は検出した段階で調査を終了したため、性格や構造は確認できませんでした。このため平成27年度に詳細な調査を行う予定です。

これらの成果は、遺跡の所在する喜友名地区の縄文時代から近世・近代までの土地利用の変遷過程を知ることができます。従って、今後もこの遺跡の適切な保存と地域住民・学術研究への活用が望されます。

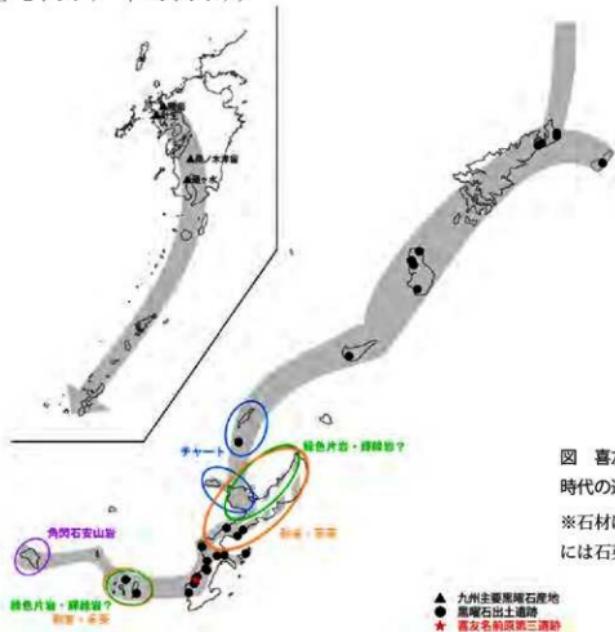


図 喜友名前原第三遺跡 縄文時代の遺物素材原産地マップ
※石材に加えて、土器の胎土中には石英や砂岩が確認される。

しらほさおねたばるどうけついせき 白保竿根田原洞穴遺跡

事業名：白保竿根田原洞穴遺跡確認調査

所在地：石垣市字白保

時代：旧石器時代（後期更新世）～グスク時代

調査期間：平成 26 年 6 月 3 日～7 月 2 日

1 はじめに

琉球列島の島々は、琉球石灰岩で覆われた地域が多く、人骨が化石として残りやすいことから、旧石器時代の人骨が数多く出土することで知られています。これまで、沖縄本島や伊江島、久米島、宮古島などの島々において、10か所前後の遺跡が発見されていますが、八重山諸島では未確認の状態が続いていました。

このような中で、2010（平成 22）年度に行われた新石垣空港建設に伴う発掘調査で出土した人骨が、約 2 万年前のものであることがわかり、その当時の石垣島に人類が到達していたことを明らかにしました。

その後、沖縄県立埋蔵文化財センターでは、遺跡のより詳細な性格・範囲を確認する目的で、平成 24 年度から重要遺跡確認調査を行っています。平成 26 年度は 6 月の 1 か月間発掘調査を実施しました。調査にあたっては、出土遺物の分析に支障がないよう、また、出土状況の再検証が可能なように、検出や記録、取上げ、運搬、分析試料サンプリングに至るまで慎重かつ迅速に行うよう努めました。

2 調査の概要

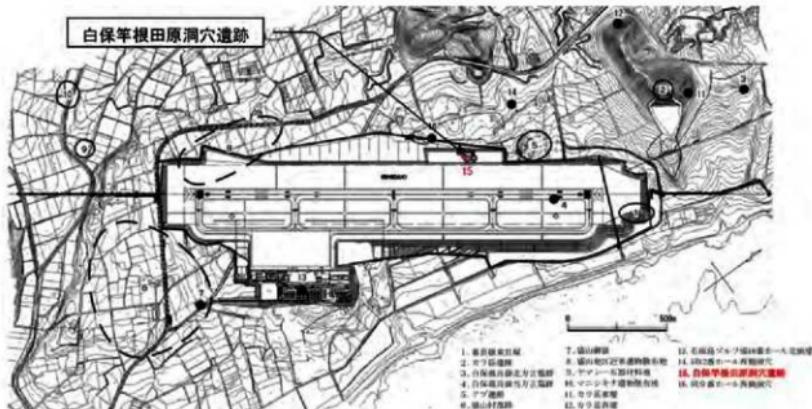
平成 26 年度の調査は、本遺跡最下層とされる IV 層（2 万～2 万 4 千年前 BP）の範囲確認を目的として、G・H4・5 グリッドにおいて 4m² の調査を行いました。調査は III E 層（2 万～2 万 4 千年前 BP）から掘り進め、ヒトの肋骨がまとまって出土する状況が確認されました。その後、崩落岩を削岩機で割りながら掘り進め、その下部から石材やヒトの大腿骨、脛骨の一部が出土しています。この人骨は関節している可能性があり、ある程度、解剖学的な位置関係を保つ可能性があります。

今後は遺物の位置関係や接合状況などを検討しながら出土状況をまとめ、人骨は接合・復元を行い、形質学的分析のほか、年代測定、DNA 分析を行います。また、土壤分析による分層及び堆積の過程を確認し、地形図や写真等の情報と合わせて旧地形の復元作業を行う予定です。

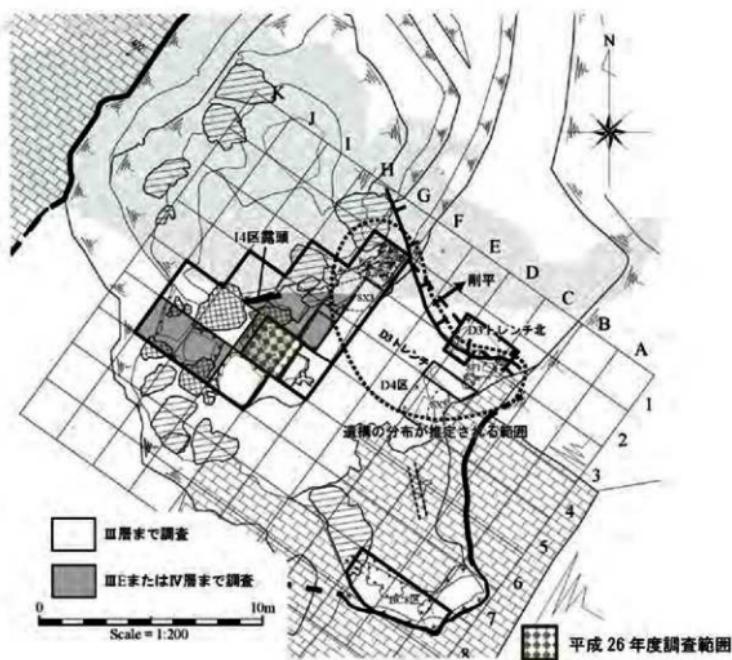
なお、調査期間中には調査指導委員会を開催し、遺跡の評価について検討を行いました。さらに、石垣市教育委員会の協力により、関連講座を 2 回開催し、調査・研究の成果を公開しました。

3 今後の計画

平成 27 年度まで確認調査を行う予定にしています。また、遺跡の適切な保護や評価、地域での活用法について検討し、その後調査報告書を刊行する予定です。



第1図 新石垣空港と周辺の遺跡



第2図 平成 26 年度調査範囲

自保笨根田原洞穴遺跡の基本層宇と主な遺構・遺物



写真1 白保竿根田原洞穴遺跡調査状況



写真2 G5区ⅢC層人骨片検出作業状況



写真3 G4区Ⅲ～Ⅳ層人骨検出作業状況



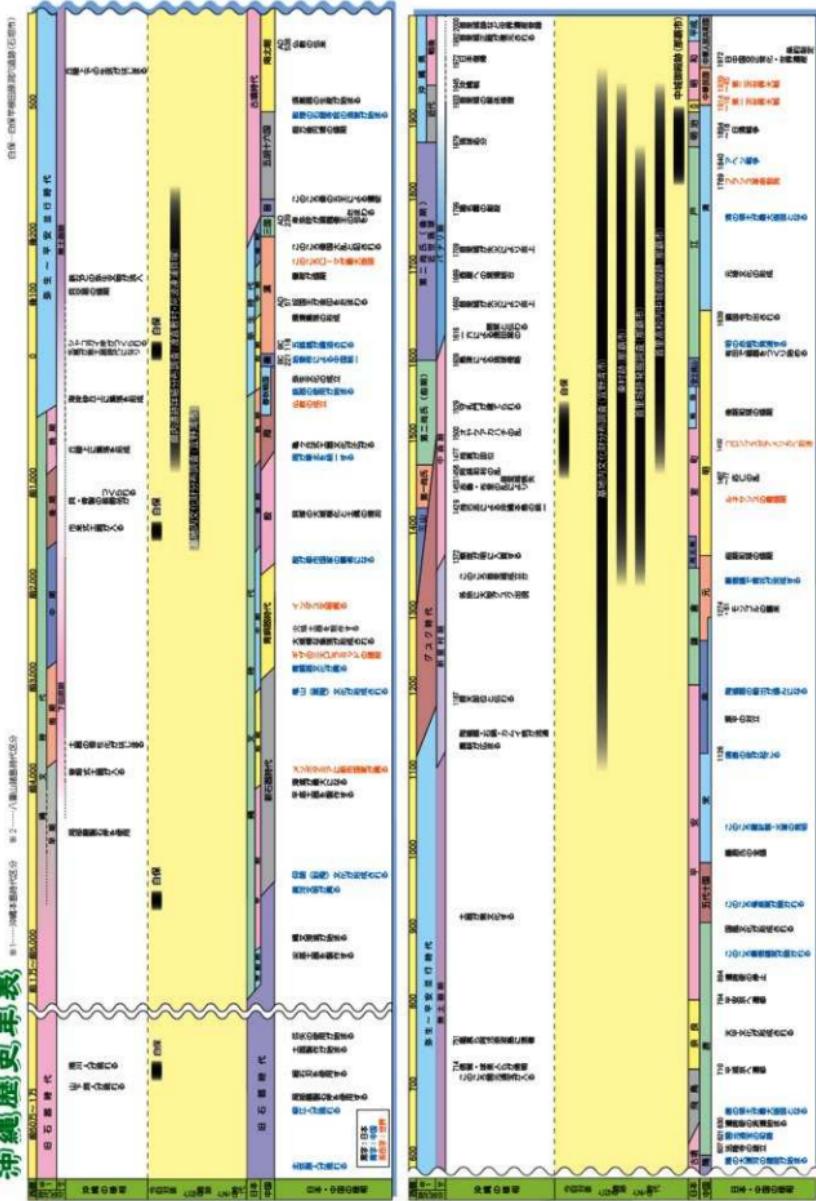
写真4 崩落岩の削岩作業状況



写真5 調査指導委員会現地観察の状況

表四

卷之八



発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

発掘調査は、大きく「学術調査」と「行政調査」のふたつに分けることができます。「学術調査」とは、大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査で、学術的な目的意識（研究テーマ）を持って取り組まれます。

一方、「行政調査」とは、行政機関（教育委員会など）がおこなう発掘調査で、その契機や原因によって大きく3つに分けることができます。

まず、遺跡（埋蔵文化財）の適切な保護を目的とし、その所在・内容等を把握するための調査があります。

次に、保存・活用のための発掘調査があります。重要な遺跡の評価をおこなうための調査や、史跡指定された遺跡の整備・活用のために行われる調査も含まれます。

最後に、記録保存のための調査があります。この調査は、開発側との調整によって、現地保存ができなくなった遺跡について、開発に先立ち発掘調査をおこなうものです。この調査によって得られた記録類は、消滅した遺跡に代わって、遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては発掘調査を実施している市町村教育委員会、

若しくは以下にお問い合わせください

- 沖縄県教育庁文化財課 記念物班 埋蔵文化財担当 TEL 098-866-2731
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 TEL 098-835-8752

◆行事予定のご案内◆

関連文化講座

第52回 文化講座

◆発掘調査速報 2015 その①◆

日時：平成 27 年 7月25日（土）13:30 開講（13:00 開場）

会場：当センター研究室 講師：当センター職員

- ①白保竿根田原洞穴遺跡確認調査 【仲座久置】
- ②県内遺跡群分布調査 阿波瀬浦貝塚 【宮城淳一】
- ③基地内文化財分布調査 嘉友名前原第三遺跡 【大堀皓平】
- ④沖縄県戦争遺跡詳細確認調査 【渕戸哲也】

*先着 140名 予約不要・参加無料

第53回 文化講座

◆発掘調査速報 2015 その②◆

日時：平成 27 年 8月8日（土）13:30 開講（13:00 開場）

会場：当センター研究室 講師：当センター職員

- ①東村跡発掘調査 【金城貴子】
- ②首里高校内中城御殿跡発掘調査 【羽方誠・龜島慎吾】
- ③首里城公園内中城御殿跡発掘調査 【山本正昭】
- ④首里城跡発掘調査 【新垣力】

*先着 140名 予約不要・参加無料

今後の催しのご案内

バネル展

◆「飛日本大震災の復興支援」（最新文化財の挖掘調査と文化財レスキュー）◆

①開催期間：平成 27 年 8月31日（月）～ 9月4日（金）

会場：沖縄県庁 民衆ホールA

②開催期間：平成 27 年 9月8日（火）～ 10月4日（日）

会場：沖縄県立埋蔵文化財センター エントランスホール

企画展

◆中城御殿跡出土品展◆

開催期間：平成 27 年 10月16日（金）～ 12月13日（日）

会場：沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展示室

*開催イベントを企画中です。

詳細が決まり次第、当センターホームページや、マスコミ等を通じて広報致します。

◆重要文化財公開 「首里城跡の内部出土品展」◆

開催期間：平成 28 年 2月23日（火）～ 5月16日（日）

会場：沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展示室

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県糸満市西原町字上原 193-7

TEL 098-835-8751 FAX 098-835-8754

HP <http://www.pref.okinawa.jp/edu>

入場無料

施所時間：午前9時～午後5時（入所は午後4時30分まで）

休 所：毎月1日曜日、年末年始

国民の祝日（このぞの日、文化の日を除く）、聖霊の日（6月 23 日）

※例年1月が祝日となる時は、翌日の1月曜日を休所

その他、臨時休所あり

文 通：沖縄自動車道西原 ICより車で約 10 分
バス：バス停「西原」発 距離：CA 97番「県大附農業院前」下車徒歩 3 分

平成 27 年度発掘調査等予定一覧

遺跡名・事業名	所在地	調査目的・原因	調査予定期間
首里城公園(中城御殿跡)発掘調査	那覇市	県営首里城公園整備に伴う発掘調査	6月～11月
基地内文化財分布調査(普天間飛行場内)	宜野湾市	基地内に所在する遺跡の把握	9月～2月
基地内文化財分布調査(キャンプ瑞慶賀西普天間住宅地区)	宜野湾市	基地内に所在する遺跡の把握	6月～12月
トライ文化財試掘調査	読谷村	基地内に所在する遺跡の把握	4月～7月
白保等根田原洞穴遺跡確認調査	石垣市	重要遺跡範囲確認	6月
県内遺跡詳細分布調査	県内各地	県内各地域の埋蔵文化財分布調査基礎資料作り	6月～7月

平成 27 年度企画展 「発掘調査速報展 2015」

発行日 2015 (平成 27) 年 7 月 22 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL 098-835-8751 FAX 098-835-8754

HP <http://www.pref.okinawa.jp/edu>
